春を告げる さげもんめぐり

ひと針、ひと針、思いをこめた飾り。家々のさげもんを見て歩く楽しみが、いつしか柳川の春の風物詩となりました。

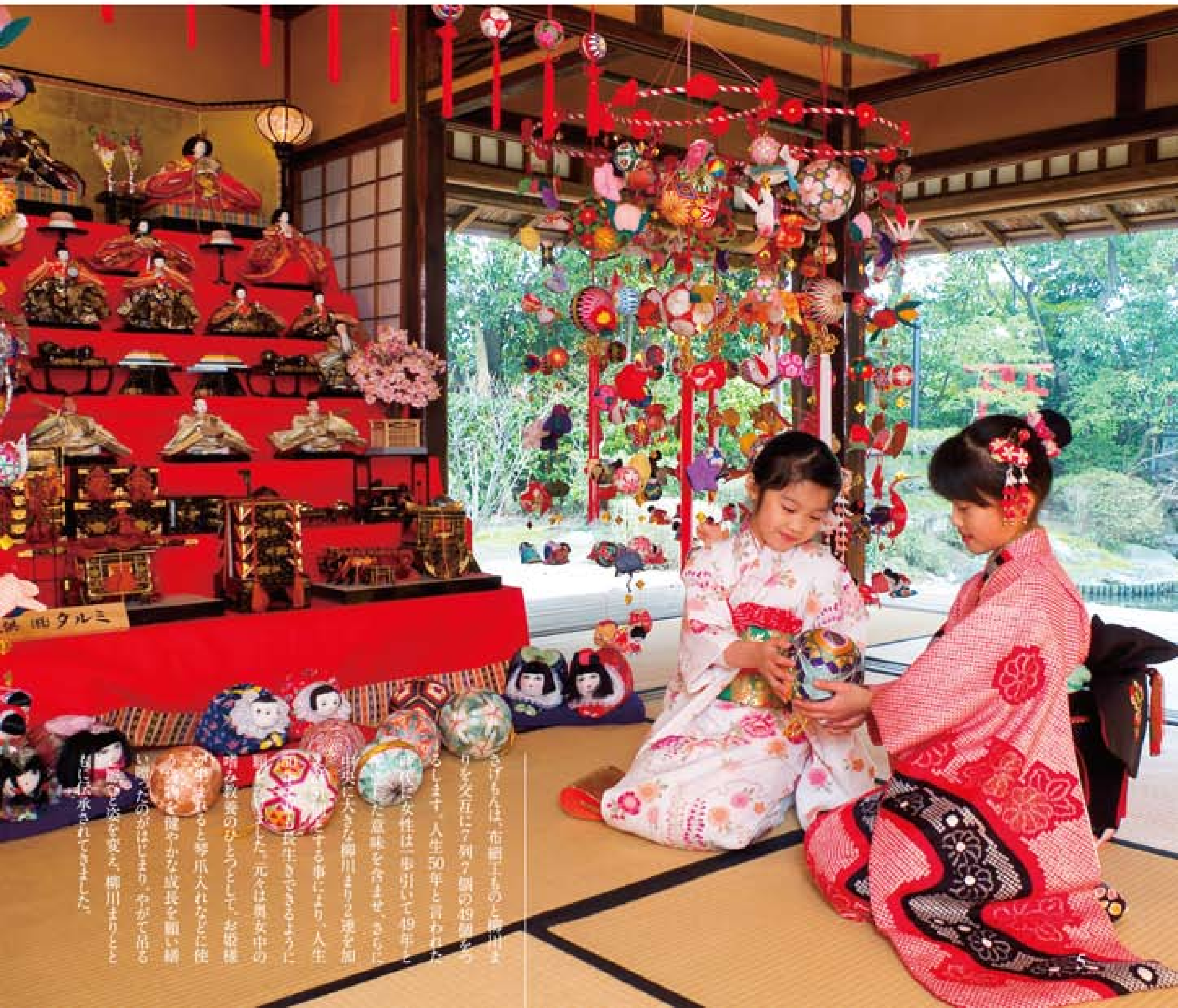
女の子が生まれた最初の年のお祝い「初節句」に、子どもの無事な成長を願ってひな人形を飾るひなまつり。柳川では、さらにそのひな壇のまわりに、色とりどりの「さげもん」を飾る慣わしがありますが、それを訪れた人びとにも見て楽しんでもらおうというのが「さげもんめぐり」の始まりです。

女性としての美しさ、強さ、誇りなどを身に付けて欲しいという親心が、その飾りひとつひとつに込められています。

毎年、15万人の方がおいでめすまつりです

毎年、2月11日から4月3日の間、「おひな様始祭」に始まり、もてなしの心にあふれた「恵美須ひな小路」などもありつつ、まちは「さげもん」で彩られます。

雅な衣装に身を包んだかわいらしい稚児たちが、舟で繰り出す「おひな様水上パレード」は、さげもんめぐりの見所のひとつ。祝いの風景あふるる、柳川の春です。



さげもんは、布細工ものと柳川まりを交互に7列7個の49個ぶらさげます。人生50年と言われた時代に、女性は一歩引いて49年と[illegible]した意味を含ませ、さらに中央に大きな柳川まり2つを加[illegible]する事により、人生[illegible]長生きできるように[illegible]ました。元々は奥女中の嗜み教養のひとつとして、お姫様が生まれると琴爪入れなどに使[illegible]健やかな成長を願い縫いたのがはじまり、やがて吊る[illegible]と姿を変え、柳川まりとともに伝承されてきました。